

2018（平成30）年10月3日

飯田建設事務所 所長
坂田 浩 一 様

伊那谷・残土問題連絡協議会
共同代表：岡庭一雄
：桂川雅信
連絡先：南信州地域問題研究所
mail：nan-tike@dia.janis.or.jp
電話：0265-52-5391

谷埋め盛土に関する第三者委員会への意見陳述に関する要望書

初秋の候、貴職にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、JR東海によるリニア中央新幹線工事は、長野工区でのトンネル工事に着手して1年以上が経過しておりますが、いまもってトンネル掘削による発生残土処分地はほとんど決定しておりません。

これはJR東海が当初から残土処分地の選定を近隣の谷埋め盛土にこだわっているため、下流域の住民から強い不安や反発の声が上がっていることからくるものです。

もともと現在の谷埋め盛土の候補地としてあげられているところは、わが国の災害史にも残る三六災害によって未曾有の被害を被った地域です。三六災害から半世紀以上経った今日でも、その傷跡は深く人々の胸に刻まれており、他地域から来た企業が土足で踏み荒らすようなことは決して許されることではないのです。しかも、近年の異常豪雨と地震防災への意識の高まりの中で、谷埋め盛土への危険性を地域住民が訴えるのは必然的なことであります。

このような中で中川村半の沢と大鹿村鶯ヶ巣沢への残土投入について、県は第三者委員会を発足させました。

私たちはこれまでも、地域住民とともにこれらの候補地についてJR東海の計画に対して、谷埋め盛り土の安全性について、研究と学習を行ってきました。

県は「第三者」の組織を立ち上げたとのことですので、この組織の委員のみなさんにはJR東海の意見だけでなく、地域をよく観察してきた地元の専門家や私たちの意見についても陳述・懇談の機会を設定されるよう、強く要望するものです。